

令和二年度「全日本中学生水の作文コンクール愛媛大会」

(知事賞) 奨励賞

(中央審査) 佳作

「生命と生活に必要な水」

松山市立久米中学校 三年 新居 桜

今年五月六日の朝、「沖縄県の糸満市で一時間におよそ百十ミリの猛烈な雨が降ったとみられ、記録的短時間大雨情報が発表された」と、テレビのニュースが報じた。その雨量は、水の量は百十リットル(百十キログラム)に相当する。想像しただけで大変な水量であり、予想をはるかに上回るスピードで道路が冠水したり、川が増水したりすると思う。その地域の方々の不安まで考えると、自然の力の恐ろしさを改めて感じるニュースだった。

しかし、私たちは自然の威力と共存しながら、一方では自然から大きな恩恵を受けて生活している。その代表的なものが水である。生命を維持するためにも、また日常生活を豊かに過ごすためにも水は欠かせない。人間の体は六十パーセント以上が水分からできていることから、水は飲み水として必要であり、また体内からは老廃物として排出される水分としても欠かせないものである。生命を維持していくために水は必要不可欠である。また、手や顔を洗うことから始まり、入浴、洗濯からトイレの洗浄まで、日常生活に欠かせない。その例を挙げると、本当にたくさんの方が考えられる。特に、新型コロナウイルスが大きな社会問題となっている現在、手洗いが励行されているが、そこにも水が必要である。一方で、生活を豊かにしてくれる水としては、おいしいジュースにも煮物にも、そして私の大好きなアイスクリームにも使われている。人間の生活に欠くことができないだけでなく、人間の生活を豊かにしてくれるのも水であるといえる。

私の祖父は、会社を定年退職して農業を始めた。自宅の近所に畑

を作り、野菜や果物をいつも届けてくれる。食材と一緒に笑顔をお届けしてくれる祖父の姿を見てみると、充実した人生を送っているなど感じ、私も笑顔になれる。その祖父の畑仕事で一番の悩みが、水がないことである。新しく作った畑には用水路も引かれていない。そのため、畑の周囲に配置したバケツやドラム缶で雨水を集めている。暑い夏や雨が降らない時期には、水がなくて困ると言う。祖父の笑顔の裏側にも、自然と共存しつつ悩みを抱えている姿があるのだ。水の大切さとともに自然の力と偉大さを改めて実感する。

また、私は川の流れを見るのが好きだ。通学路に沿って流れる川を見て季節を感じたり癒されたりしながら生活している。川の中に大きな鳥がいたり、川のほとりに花が咲いていたりすると心が落ち着く。その一方で、川にゴミが流れていたり、雨上がりに水が濁っていたりすると、心が落ち着かなくなり、悲しくなる。用水路や排水路などとして活用されている川ではあるが、生活に必要な川の流れば、人間の心にも影響を大きく与える。日々の生活を振り返ると、私も水の恩恵とともに、水の生み出す環境から影響を受けていると感じる。

このように、人間の生命にも生活にも必要な水。大切であることは多くの人が理解している。しかし、その大切な宝物を大切に扱っているかと問われると、反省しなければならぬこともある。洗面所の蛇口を流しっぱなしにしたり、飲みかけのジュースを捨ててしまったりしたこともある。雨を待ち続ける農家の方々の思いを考えず、雨の日を憂いてしまったこともある。だからこそ、この機会に改めて水との生活を見直してみたい。そして私にできることは小さなことかもしれないが、できることから始めてみようと思う。私たちは、日々の生活の中で、水を大切に取る取り組みを出来ることから始める義務があるのだ。そして、小さな行動が次から次へと結びつき、大きな川の流れになるように、水を大切にされた生活を送っていききたい。それができてこそ、自然と共存しつつ自然の恩恵を受けられることができるのではないだろうか。